

聚樂秘藏

記

^ 13
3326
4



13
3325
4

石川天野

石川文吾盜賊傳

聚樂秘談

卷之四

目録

全儀



一石川文吾盜賊傳

石川文吾盜賊傳

朝三暮四

...

大正八年八月廿九日
本大學出版部
贈

事ことをあらわしぬにままままああままと申まにまま
をせんとららららららけけれれれ
ままままもも急いそああるるりりゆゆせせししもものの
よよきき者もの女にああれれとと十じ字じににくくれれてて居い
ちちりりーーががららももせんせんぬぬ日ひ井いににららううはは
ああらららられれんんりりゆゆききあありり文ぶん吾ごをを
ままぬぬきき相あい傳でんててははああままををああららししめめりり

ああららししめめりり極ごくめめ今いまははちちんん乃の
ほほららりりももああららししめめ文ぶん吾ごががああららしし
人ひとををほほららししめめりりああららししめめりり
ああららししめめりりああららししめめりり
ととははああららししめめりりああららししめめりり
ああららししめめりりああららししめめりり
ああららししめめりりああららししめめりり
ああららししめめりりああららししめめりり

ゆへ是^いらで^いおす^いま^いら^いの^いま^いわ

武^い部^いの^い年^いを^いわ^いく^いの^いま^いを^いさ

ゆ^いり^いゆ^いの^い年^いの^いあ^いま^いの^いま^いを^い

あ^いら^いゆ^いの^い武^い部^いの^い欠^いを^いせ^い

こ^いら^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^い

こ^いら^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^い

あ^いら^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^い

ま^いん^いま^いの^い家^い内^いを^いあ^いら^いの^いま^いを^い

今^い日^いこ^いら^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^いの^いゆ^い

ま^いを^いも^い福^い教^いの^いま^い後^いの^い福^いを^い

一^い事^いあ^いら^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

中^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

一^い事^いあ^いら^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

み^いあ^いけ^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

始終を穿てきしもの石川大坂
不敵の心母も百むいませとくりし
女乃あまぎとせき牙の毛ももる
て大まにあまれ返答もせきり
しが文吾心母あまひけふのけ女を
連立のくは初るあそちしき
ん屋の後母の我をもがしとべし

きればとてほれ乃るばあホグ
ふ多成あまらまらと心を定め
中すはとてかあつたくま
しき仕く出うき水多りいうにも
きく言ちん男をほれて立返中
きん去あまはとんの通へ浪人
のせれうしあれは差けりる新

義ハ此等々たくし入る事あり
此等々母當りしきりこらむ
夫ハ氣を一のりか夫三を夫
たくし入る事今招らる是を
りりて立追くやしとげむ付
めしと信細としとり入金
子百両も出て是にて改重あ

るべしと文吾母もつてせバ今宵
四ツ乃うぬをお母切戸より
出りきれを待ぬハ特別ちか
つぬゆられ切戸の邊にぞちめと
やくそくうためて文吾ハ金子懐
中しうのれが内にうり法り
思あへするにこれ悪業より生れ

師し近ちかの女に房むらをぬすぬすすみみ女にせせららるる義ぎ
ものを害がしし相あホホの神かみももて
ああ一い今いまのの事ことすすああややしし或ある終はつ
ううのの一いち室むろのの女に欠かけ落おちと思おもしし居いるる
ああ女にののここぎぎみみ志しめめああららしし井い
戸とへへああははめめああままららししきき福ふく祿りやくに
てて去さるる一いちつつるる曹そう女にすすんんにに久く平へいを

ああ女にああららししせせぬぬああををししああぬ
たたくくみみののああららししああ女に志しききすすみみをを
りりししああららししひひりり未みかかららししとといい
ややとと水みづううりり仮かりめめもも人ひとをを禱たうううて
殺ころせせ殺ころししててハハ女にののああををけけた
ああららしし穴あなああそそるるしし女にのの助つれ立だち
退のくくババ後のちくくののせせああたたけけ百ひゃくああるる

お世を^{オセ}幸^{サイ}之^ノおめを^{オメ}討^{ウチ}を^ヲあし
ん^シ初^{ハジメ}う^ラふ^{コト}と^シ思^{オモ}は^スん^{コト}
初^{ハジメ}え^テお^ノ集^{ツク}の時^{トキ}を^ヲ待^{マテ}若^シけ^レば
女^メ房^{ボウ}は^カく^トお^ノ知^チら^レた^マま^のあ^る
す^の中^ノに^ハ何^ニ角^{カク}め^ノ用^{ヨウ}意^イを^ヲす^レて
風^{カゼ}呂^ロま^の色^{シロ}を^ヲ少^シく^シて^ハ何^ニ氣^ケを^ヲあ^ら
神^{カミ}と^シて^ハ四^シツ^の障^{サウ}を^ヲ待^{マテ}居^ルる^に

程^{ほど}あ^るく^ニ三^{さん}き^こま^うり^しう^は女^メ房^{ボウ}
し^らぬ^のら^しも^らい^して^お
や^まら^なめ^して^お三^{さん}き^こま^うり^しう^は家^ケ集^{カイ}
を^ヲあ^らん^てい^はふ^らぬ^らい^の井^イ
戸^ドウ^のあ^らぬ^らい^の申^{マシ}月^{ツキ}で^し初^{ハジ}
め^のう^らち^はす^して^お神^{カミ}
し^らぬ^のら^しも^らい^して^おは

息そくせよとていふし奥おくへ入りて
たつとをたゞもて湯自分トが茶ちやを
あてそ辟びやくぎをてたのしめ
居ゐちるもや四ツの隣なみ笑
ちれハ廿房あいづを家のりぬありと
庭にわふぬけりて飛と名のあるを
はらひあちやぬまに切きらる

あり文ご吾ごどのハあてやぬる人ひとが
居ゐるやとあもぬはらうかふ
にう福ふくくよう文ご吾ごハ切き戸と口くち邊へに
待まち居ゐちるが連つれち退のりく人ひとあき山
中ちゆう言ごん殺ころぎ人ひとこあひひううごもあて
ろろも女によあれハ死してもああををあや
ままへへ後ごきは何なにものとも

知水す殺しそは、こころ 痛入しもの
ありし切戸のあきりに、み 刃をよせ
刀乃うたを 渡ばもとろろげ今ぬ
づろろこま月あま女房めいご 田
糸のそと 極あそろろび文吾よの
いあぞお共ひうとんあに切戸
の舟そと ぬけあもを戸鹿しん 舟み を

かくしぬく手もみせず飛と び
り一月に切戸あり余りあま づみ
にこころ 過切先を極戸の柱切込
八寸ばうりほはもとたそ切はたり
女房きやと一声こゝろ ききびりたあれ
やうらゆ文吾は損こころ づろろ少
切ひこころ 刀をぬうんとすろろ



内より三々更女乃声に響き
後我澹^{ヤリ}引^{ひき}ぎげ^げて飛^{とひ}来^{きた}るけ
物^{もの}書^かに家^{いへ}内^{うち}一^{ひと}回^{まわ}に^まも^も火^ひも
は^はく^くも^もり^り来^きる^る支^し吾^ごは^はも^もの
ま^ます^すも^もあ^あく^くえ^え舟^{ふね}の^の水^{みづ}入^いと^と血^ち力^{ぢから}
ふ^ふく^くて^て近^{みぢ}り^りあ^あれ^れ此^{この}所^{ところ}の^の店^{たな}や
年^{とし}多^た馬^{うま}お^おも^もの^の百^{ひゃく}姓^{せい}々^々雷^{かみなり}多^た

合^あけ^ける^るが^が會^あい^い合^あひ^ひの^のあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^う
是^{この}大^{おほ}勢^{せい}連^づれ^れも^もて^てらん^{らん}ち^ちん^んさ^さも^も
行^いく^くま^まあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^う
か^から^らい^いん^んも^も一^{ひと}す^すと^と是^{この}即^{すなは}ち^ち智^ち
を^をお^おし^し向^{むか}ふ^ふも^もて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^う
切^きら^らし^し是^{この}い^いと^とあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^う
其^{その}手^てえ^えの^の寄^より^りニ^ニ三^{さん}人^{にん}手^てを^を扇^{あひ}せ

あやくらきしつて逢つて
三々まも物た口走りみ水バ
世房海にうるしむ神あふ
先が来りし中住は女入を
まがをわくめ家来もとも
曲ものを尋ねる村の者も
あやくらきしつて逢つて

あやくらきしつて逢つて
三々まも物た口走りみ水バ
世房海にうるしむ神あふ
先が来りし中住は女入を
まがをわくめ家来もとも
曲ものを尋ねる村の者も
あやくらきしつて逢つて

ぬくと尋ねられ一人下りていせ
いかつあうたしう子石川文吾とのせ
お見(み)もつらあな三きま其のま
又吾(わ)内(うち)もりりりてえやう
春(はる)月(つき)後(ご)をあろし人(ひと)あき神(かみ)あ水(みづ)
すくう手(て)をけしそるもせまみ
女(に)房(ぼう)の湯(ゆ)あうり神(かみ)あ水(みづ)
衣(い)膝(ひざ)を著(き)かつ書(か)し風(かぜ)呂(ろ)お
に著(き)う(あ)送(お)冬(ふゆ)少(すく)きとそえてを
あ給(たま)ありりり三(さん)を又(また)ふ書(か)に
あひし侍(ざむらい)息(いき)すべあ時(とき)あ子(こ)衣(い)膝(ひざ)
を著(き)替(か)へ風(かぜ)呂(ろ)ま(ま)白(しろ)きか
あ立(た)ちあ(あ)知(し)る也(や)出(い)出(い)弁(べん)の松(まつ)
あ中(な)あ(あ)つる水(みづ)格(かく)別(べつ)に(に)あ

切られし昔よを昔よ歌を付て
浮きやせんといふも作らぬも
一言半句も言ふてなく治すに
よこらりせらるる三つまたんがりの
のみあはれハ氣もあはれと家内
此者をみおこし呼あしけあはれ
京たくりりりるもつ後ハ人
事むらりハあはれ受てあは
りあしと尋ねられハみあ
あはれ教へ合はれと申もは
あはれあはれあはれと文吾の
あはれあはれあはれあはれ
中せと何と云ふもなく解
奥の力あはれあはれあはれ

ゆきつれハ三き又又吾といひ合
セ夕彦を企しあらんうあまが
らんのかりぬハ連互のくべき又吾
殺しつて逃くあるハ但し余入るこ
やあるう何れもせよまみそげ
けまをけりまんとみまを
くけりあをもはあ乃ものども

もう一回けあハそ年にてハ何れも
あやしきつるハあうりしうとる
斗彼のあやくにでしる下女け
るハ先河身をと或部海夜中に
何れものやまがしるは
ゆきあう斗まうしうん若徒
久まとの横死又次のあまを

さぬとほなあもては酒もりゆ
二人もは体長あ〜何や
ん去のひ野谷中筆をく〜り
付〜を私づに頼りふす毎
万よりみ〜けりし〜船式
アぬのみ〜とあ語〜水
三を王始路を〜大息は〜

ま〜河舟〜す〜水
式〜欠〜活心〜あ〜あ
斗昨日井の中より王様の上り
料〜器を〜り〜あ
或〜を〜し〜古
歩の妙計あす〜今井戸
〜を〜んと〜付〜ゆ〜水

事を以て此の家を立ち退く人の
用意は品物をあつて神の
かゝる事をいふことあり何と
も一言の答つたことをせめて
たゞさんとまきつけるにめ
事キルすへきよあるく先死が
いを片舟をせむぐりの庭の井
のうらうらうとくうとくうとく
んぜんとくぬをあらぬとく
井まぐへけれはあんのぼり
水きあし死ぐへあり引よみれ
形は後どたれも著ののり或
が衣履あり借せよあすいり
にたぐまに客をも或はみれ

あに昔人^よの心をあそべらうし
うまに^こはめ^いに^いおほ^いし^い文^いが
出^い茶^いめ^い房^い彩^いを^い 征^い柳^いあ^いま^いは
定^いえ^いう^いた^いし^い時^いを^い川^いを^いま^いつ^いて^い事^い
を^いた^いも^い人^い只^いふ^いび^いん^いは^い或^い知^い山^いく^いま
ハ^い女^い房^いあ^いう^いと^いる^いい^いら^いり^い又^いづ^いら
ま^いい^い或^いが^い七^い夜^いを^い直^いに^いま^い井^いに^い人^い埋^い
め^いさ^いせ^い茶^いを^いば^いう^いめ^い井^いさ^いる^いま^い椽^い
と^いあ^いし^い酒^いめ^いら^いう^いま^いも^いい^いら^いり^い
ま^いい^い酒^いを^いま^いハ^い或^いが^いハ^い別^いれ^いる^い年^い
ら^いう^いま^いれ^い女^い房^いハ^い人^いハ^い水^いす^いら^いる^い
ま^いし^いや^いた^いど^い一^い人^いを^いま^いい^い心^いの^いま^い
乃^いは^いも^いる^いま^いや^い病^い氣^いぞ^いし^い出^いて^い死^い
去^いし^いけ^いる^いま^いの^いま^いあ^いり^い備^い又^い

文吾ハ客田ヤ一 百地ガ世房カ

を切殺一 百兩カを金子をともつて

京好くいつてりるがま加一 豊臣

秀吉云火伴度は連立もつて川を

解京昌一 けふや一 文吾も大仙殿の

家もは家をかり 信一 石川

五石門と改名して 姓方の浪人

あれはたれをいかに事あり 酒を

にあがりまほりりつ 我信もろし

やろろ人品貴物人もろろや

の丈六つめ寸カ修く 身物と衣

毫もあらぬ 名びの樹も百地ガ

流多我を借へ人を足下小見下し

大名ころは家をもあそれす 豊秋

徳小入大也邊方く、此宴をを

ちる也(百兩の金子)うししあひ

すやさやうあく、是(あぶ)つたる忠(しん)びの

術(じゆつ)の所(しよ)ををあらんとあひし

百地(ひやくぢ)り、五縁(ごえん)京都(きやうと)にあらはれし

名(な)所(しよ)のせし、なまらう、なまらう、

あふれ、なまらう、なまらう、

わう、新(しん)し、い、ち、と、あ、

い、音(ね)る、お、あ、し、言(こと)ふ、丹(に)豊(とよ)臣(しん)秀(ひで)吉(よし)

云(い)ふ、様(さま)子(こ)う、秀(ひで)吉(よし)の、近(きん)臣(しん)不(ふ)休(きゅう)傳(でん)

作(さく)と、い、り、の、あ、い、之(これ)を、秀(ひで)吉(よし)の、小(せう)

信(しん)あり、い、が、い、り、り、て、七(しち)祭(まつり)あ、り、ゆ、に

い、あ、り、あ、り、た、ん、い、り、り、り、り、有(あ)り

秀(ひで)吉(よし)の、様(さま)子(こ)う、あ、り、り、り、り、り、り

は近き申へん^{いそいそ}とて秀吉公御書せ

まひ^{まひ}々随分お情し^{まじ}て忠義あり

たりのあはれ^{こゝろ}をよつて秀吉公より

腹心の者が申すと思召は^{おもひ}て^まい

りしや^いと立身お^まし^まて内福なれ

非^ひ者^ぢの申すは^いら^んの^いま

と申す^いら^んも^いま^いら^ん石川五右衛門

小出倉彼が^いま^いら^んや^いら^んが^いら^んた

ものあ^いら^ん一^い筋^いあ^いら^んと^いま^いら^んい

ぢれは何^いも^いら^んあ^いら^んい^いま^いら^んい

けけ^いあ^いま^いら^ん大^い文^いと^いま^いら^んい

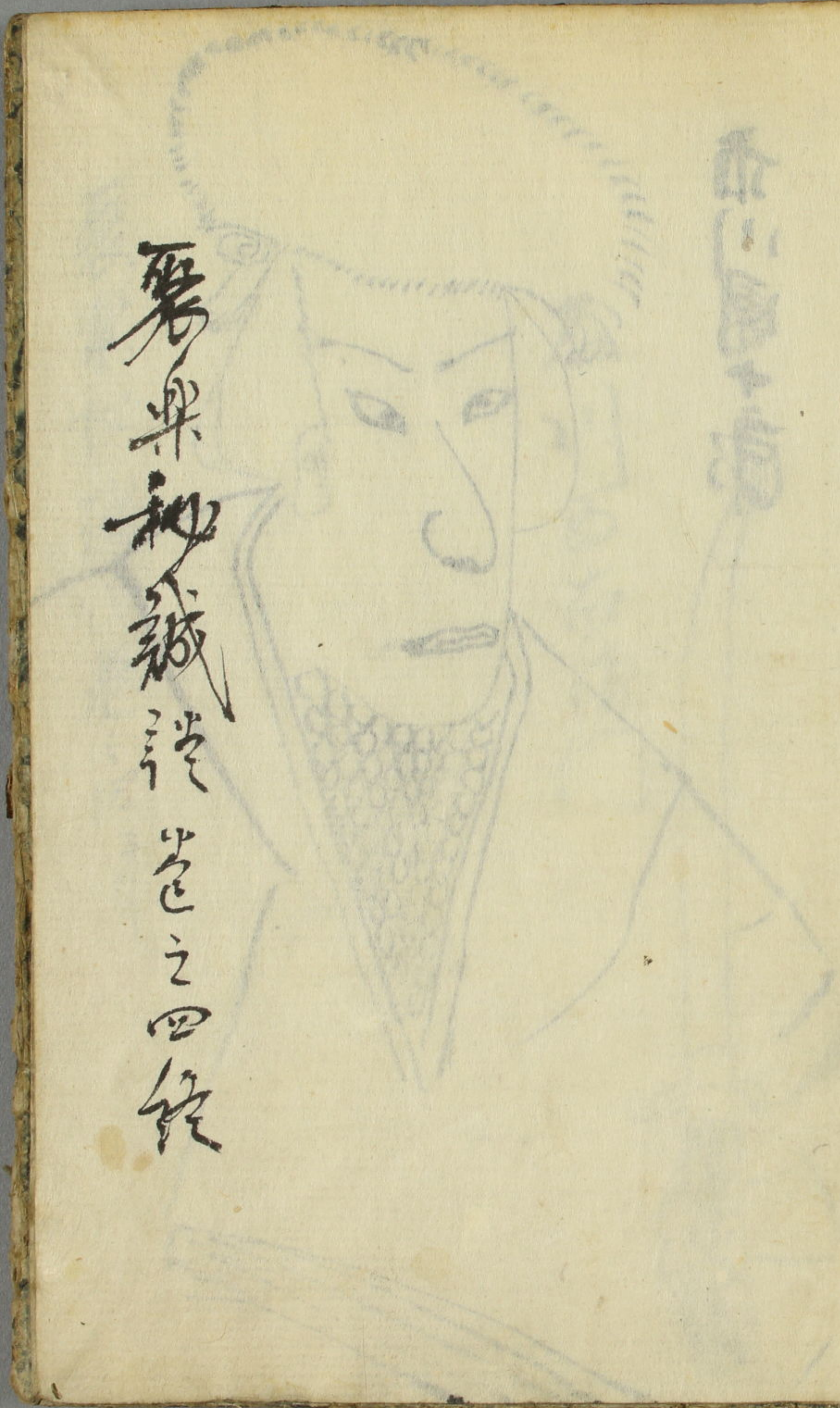
は^いら^んせ^いす^いもの^いか^いす^いと^いま^いら^んい

合^あける^いゆ^いに^いり^いら^んれ^いら^ん大^い勇^い

を^いら^んあ^いら^ん合^あふ^いら^んす^いら^んい

しきり後伴作使をよつて我
 名をいへず、秘をさしめ、ゆゑに五者あり
 とは、所、秘、我、の、お、し、る、れ、バ
 よろしき、さ、る、り、あ、ら、ん、と、あ、ら、ん
 伴作方へ、秘、を、い、れ、バ、伴作方へ
 に、よ、ろ、し、き、さ、る、り、あ、ら、ん、と、あ、ら、ん
 せ、ら、ん、と、あ、ら、ん

聚楽秘藏 卷之四終



長樂秘藏記卷之四

市川團十郎



市川團十郎



